

# 第1回草津市総合教育会議 会議録

令和3年10月19日開催

草津市役所 8階大会議室

出席者	草津市長	橋川 渉
	草津市教育委員会	
	教育長	藤田 雅也
	委員	稲垣 明美
	委員	松嶋 徹也
	委員	小辻 寿規
	委員	我孫子 智美
事務局	総合政策部長	木村 博
	総合政策部副部長（総括）	岸本 久
	まちづくり協働課長	西山 宣克
	教育部長	南川 等
	教育部理事（学校教育担当）	作田 まさ代
	教育部副部長（総括）	田中 三男
	教育部副部長（図書館担当） 兼 図書館長	武村 彰
	教育部副部長 兼 学校教育課長	菊池 誠
	教育総務課長	森下 康二
	生涯学習課長	上原 香織
	学校政策推進課長	上原 忠士
	教育総務課係長	永田 厚子
	大学生	水 登 氏

開会 午前10時00分

市長

定刻となりましたので、令和3年度第1回目の草津市総合教育会議を開催いたします。

本日の会議は、2部構成となっております。第1部が「緊急事態宣言発令期間のオンライン授業の実施について」、第2部が「地域社会の希望となる子どもの育成～第3期草津市教育振興基本計画の推進に向けて～」ということで意見交換をしていきますので、よろしく願いいたします。

会議の進行については事務局でお願いします。

教育部長

市長から会議の進行を委任いただきましたので、進行させていただきます。

それでは、1つ目の議題「緊急事態宣言発令期間のオンライン授業の実施について」に入らせていただきたいと思います。担当課であります学校政策推進課から説明をお願いします。

学校政策推進課長

私から、緊急事態宣言発令期間のオンライン授業の実施について報告させていただきます。

オンライン授業に向けて3つのことを取り組みました。1つ目が教員研修会、2つ目がオンライン授業の模擬体験、最後にテスト配信・接続テストです。御存知のように、昨年9月から12月上旬にかけて、国のGIGAスクール構想の実現に向け、児童生徒に1人1台端末が配備されました。それと同時に、令和2年7月下旬から市内では休校時に備え、市内小中学校でオンライン授業の研修会を行いました。そのオンライン授業研修会で教員が操作を学び、2番目の授業の模擬体験へとつなげていきました。校内で複数の教室に分かれて授業の模擬体験をしました。原則として、返事をするときだけマイクをオン、授業を受けるときは映像、マイクをオフにするということを徹底しました。最後に、テスト配信・接続テストです。令和2年12月下旬から学習者用端末を持ち帰り、家庭での接続テストを実施しました。御家庭によっては、Wi-Fi環境が整っていない御家庭がありますので、その方にはルーターを貸与いたしました。御家庭でもアクセスできるような手順書を配布し、ホームページにも掲載してスムーズな接続

を試みました。持って帰るときには、情報モラル教育を徹底し、家庭での活用ルール等の配布を行いました。接続テストから見えてきた課題は、「低学年の子どもだけでは家のWi-Fiに繋がることが難しい」、「パスワードが必要で、おうちの方の支援が必要だ」という声が上がりました。実際に緊急事態宣言があり、8月30日から9月24日の4週間にわたり、オンライン授業を実施しました。形態としましては、午前中に対面の授業をして昼食を摂らずに下校、その後、オンライン授業を昼から1、2時間とるような形です。学習者用端末は持ち帰りますが、今までとは違った充電器の扱いをしました。今までは、学校で充電をして持って帰るということでしたが、基本は家で充電をして学校へ持ってくるという形を4週間とりました。ルーター貸与の御家庭に通信料徴収を2回に分けてしましたが、1回目の9月13日までで約150件、後半は100件ほどのルーター貸与の御家庭がありました。

授業プランについてはここに書かれていますとおり、Microsoft Teamsによりライブ配信。最初は学年で実施しましたが、徐々に学級ごとでの配信授業が可能になっていきました。小学校では子ども預かりを実施していましたので、学校でオンライン授業を受ける子もいました。続いて、映像がありますので御覧ください。

(ビデオ視聴)

以上のように、小学校、中学校の授業の様子を見ていただきました。8月の末は、まだ学年単位で双方向の授業ができませんでしたので、初めに、一方通行の学習を行いました。そして2週目、3週目には、徐々に双方向の学習が可能になっていきました。

オンライン授業についての成果と課題です。

保護者からは「学習の機会が保障されてありがたい」、「子どもが学習する様子を見られて良い機会になった」という声があり、今まで積み上げてきた本市のICTを活用した授業を高く評価していただきました。さらに、不登校傾向の児童生徒のうち午後からのオンライン授業には参加できたというケースがありました。午前中に対面授業をすることで、午前中は対面、午後はオンライン、そして次の日の対面という学習の流れができ、学習内容を理解しやすい面もあります。「オンライン授業終了後、そのまま家庭学習や宿題にも集中して取り組むことができるようになった」と

いう保護者の声も聞いております。

課題としましては、3つあります。当初は「つながらない」、「どのチームに参加していいかわからない」など、操作面に関わる問い合わせが多くあり、学校政策推進課や学校で対応をしておりました。2週目に入りますと「問題が難しい」、「黒板の字をもう少し大きく書いてほしい」など、授業の中身や内容に関わるものが増えていきました。また、毎日の登下校の最中に、iPadやWindowsを壊してしまわないかと子ども自身が心配することもあったようです。3、4週目に入りますと、「内容によってはオンライン授業が集中しにくい」という声もあり、今後はどのような学習内容がオンライン授業に適しているかを研究していく必要があると考えております。

最後に緊急事態宣言下小中学生生活アンケート調査についてです。特例の日課に伴い、子どもの実態生活アンケートを全児童生徒に行いました。「昼ご飯は食べていますか」、「何か困ったことはありませんか」という内容です。その1つに、「午後のオンライン授業はわかりやすいですか」という質問がありました。小学生でわかりやすいと答えた割合が62.4%、中学生で49.7%。一方、わかりにくいと答えた割合が小学生でやや多く12.6%、中学生で10.0%という結果になりました。

以上で、緊急事態宣言下のオンライン授業についての報告を終わらせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

教育部長

それでは、ただいま御説明いたしました内容を踏まえていただきまして、約10分程度の時間で意見交換をお願いしたいと思います。また、質問等があれば、説明させていただきますので、よろしく願いいたします。

小辻委員

3ページのオンライン授業についてです。ルーター貸与が行われたということで、最初は150名程度、次は100名程度ということですが、この50名の差はどのように生まれたものかわかっている範囲で結構ですので、教えていただけますでしょうか。

学校政策推進課長

50名が減った要因の1つは、おうちでWi-Fi環境を整えていただいたことがあります。また、前半で兄弟分を借りられ、実際にやってみて1台でも十分だということで、後半は1人分を借

りられたというような家庭での調整をしていただいたことで減ったのかと思っております。

松嶋委員

感想にはなりますが、自分の子どもが通っている小学校で休校措置がとられ、実際のオンライン授業を横で見えていました。1週目で、先生側でもどういう問題があるかというところをしっかりと把握されたのか、2週目以降は非常に順調に授業されていて、このように学習の機会をとっていただいていたと感じました。私の子どもは小学校の低学年で話を聞いている限り、高学年はチャットで文字を打ったり、質問などをしたりして双方向で学習ができていたということですが、低学年の子は、まだローマ字もすっかり習っていないため、チャットもできません。基本的には先生が授業の内容を説明して、子どもたちはマイクとビデオをオフにして授業を聞くという体制でした。実際に1週目でマイクをオンにしている子どもたちが自由にしゃべってしまい、授業にならないという風景は見ていましたので、問題をしっかりと把握して正しい措置をしていると感じましたが、双方向で授業ができないのであれば、何年生以下の子に関しては、先生が録画しておいたものを配信するといった形にして先生側の負担を減らす方法が今後出てくるのではないかと感じました。また、授業の中で使うテキストを先生が車で各児童の家まで持って行って配布するという光景があり、ここはやはりタブレットを使えるようになり、いろいろな方法で資料も共有できるようになってはいるものの、おそらくテキストの著作権の関係などが原因で、できていないところなのかと感じました。そういったところでデジタル教科書などを利用して、先生の負担をより減らしつつオンライン授業ができるようになれば、より草津市のオンライン授業が発展するのではないかと感じました。

私の感想になりますが以上になります。

教育部長

先ほどの意見にありました、デジタル教科書の著作権の関係をことを説明していただいてもよろしいですか。

学校政策推進課長

松嶋委員から話があった著作権の関係のことですが、8月30日からオンライン授業を実施していました。このときは、著作権が関わって使用できない状態でした。しかし、9月4日からは授

業目的公衆送信補償金というものを支払い、デジタル教科書、著作物を使用できるようになりました。

松嶋委員

今後は、テキストを配布するといった対応をしなくてもよいということですか。

学校政策推進課長

そうです。

稲垣委員

他市や他府県のことを聞くと、オンライン授業ではドリル的な学習のみで授業をされているみたいです。草津市は、早めに職員研修やオンライン授業のお試しなどをやられた成果が見えていると感じさせていただきました。午前中は学校へ来て、午後はオンラインという形ですので、子どもたちの疑問も学校へ来たときに解消されると思います。また、先生からの指示がしやすいということで、上手く回っていたのかと感じます。保護者の声を聞くと、「オンライン授業での漢字学習は大変有効だった」、「学年での授業もやりやすかった」ということは聞いておりますので、使い方によっては機能するのかと感じました。しかし、課題にもいろいろあったように、一方的な授業だと、画面の向こうで児童や生徒は何をしているか見えないという部分や授業をしている以上、評価が絡んでくると思いますので、その辺りが難しい課題ではないのかと思います。

教育部長

他の委員さんも意見があればいかがですか。

小辻委員

大学の講義をやっていると演習系の科目はやはり「対面でやりたい」という声が多いです。その一方で、講義科目に関してはオンデマンド配信やビデオのみでも満足度が非常に高いという状況が少なくとも立命館大学にはありました。子どもたちも聞くだけであれば、うるさい子どもの声を聞くことがないので、真面目に頑張る子どもたちにとって非常に有効だろうと思います。しかし、なかなか聞くことができない子どもたちにとってはあまり有効的ではないと思います。少なくとも真剣に聞ける子どもたちがその時間さえ取ることができれば、今後もそういう授業に関しては、ビデオを見るという形でも良いと思います。ビデオを撮り慣れていない最初のころは、先生方の負担が増えるかもしれないと

心配ですが、先生方の負担が減るのか増えるのかはやってみないとわからないので、例えば、ビデオの作り方の講座なども含めて何かやっていただくと、先生方もやりやすいかと思います。どのようにしていけばビデオができあがるのかがわかるようにしていくことが鍵ではないかと思いを聞いておりました。

教育部長

今回が初めて本格的に全校が揃ってオンライン授業を実施したということで、教育長に現場を見に行ってくださいました。その感想があればお願いします。

教育長

オンライン授業の話をしたときに、技術的な面で心配がありました。小学校2校と中学校1校に伺わせていただいたときに、校長先生も心配されていましたが、現場の先生方は非常にスムーズに何も問題なくやっておられました。そこは今までいろいろな想定をした中で、教職員のスキルアップを図ってこられた成果が出ており、先生方が積極的に興味を持ってやっていただいたということが非常に良かったのかと思います。元々は、感染症対策と学びの保障の2点で給食という一番リスクが高い時間を回避して、昼からはオンライン授業で学びを止めないという形でやらせていただきましたが、その2点の目的以外にもいろいろな効果があったということをお聞きしております。その点については、早くからこのICT教育に取り組んできていただいた今までの成果が出ていたということです。保護者の方にもその取り組みを見ていただいたということで、学校の先生方の頑張りについても非常に高い評価をしていただいております、いろいろな相乗効果も出ていると思っています。しかしその反面、稲垣委員もおっしゃるように評価をどうするか、子どもたちがどういった態度、状況でオンライン授業を受けているのかといった課題はあります。また、アンケートでは、まだわかりにくいという声もありますので、その辺をどのようにスキルアップしていくかについては、まだまだ課題が多いと思っております。今回、緊急事態宣言下における対応でございましたが、いろいろなことが見えてきましたので、緊急事態宣言下だけでなく、小辻委員がおっしゃったように通常でもこのようなやり方を活用しても良いのかと思います。今回、オンライン授業が4週間ありましたので、スキルアップを図れましたが、やはりこういうものは使っていないと忘れてしまうということも



あります。これからはタブレットを月に1回は必ず持ち帰っていただくようにしようと思います。外部との関係をもつことを心配される方もいらっしゃると思いますが、心配するばかりで使わないと本末転倒でございますので、使いながらそういった情報リテラシーやモラル教育を併せてやっていくべきだと思っております。

教育部長

少しまとめた話になりましたが、我孫子委員も是非お願いします。

我孫子委員

おそらく、昨年にオンライン授業へ向けて研修会などいろいろなことをされたからこそ、1か月にわたり、しっかりオンライン授業ができたと思います。先生方も含めて大変努力をされたと思います。これから、オンライン授業を進めるに当たり、研修会や準備などがさらに必要になってくると思いますので、この辺りのスケジュールを上手く組んでいただいて、進めていただきたいと思っています。

教育部長

本当は御意見や議論をいただきたいところですが、時間の関係で恐れ入りますがまとめをもう一度お願いします。

教育長

先ほど少し言い忘れましたことがあります。実は先生方が、「他の先生のオンライン授業を見たことがない」と言っておられました。校内見学などの機会はあると思いますが、ほとんど見るできていないということです。今回のオンライン授業で他の先生の授業風景を見ることができ、先生方のスキルアップや良い研修の場になったとお聞きしております。特に人材育成については、オンザジョブトレーニングとよく言われており、実際にその授業を見てその場で違う先生方からいろいろなアドバイスをさせていただくということで効果が非常に高く出て参りましたので、校内研修にもオンライン授業を使っただけでも良いかもしれないとお話していました。そういった非常に良い部分の評価もございましたので、今後は、先生方の負担にならないように、留意しながら草津市の教育水準のレベルを全体にどうやって上げていくのかというところを大事にして、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。オンライン授業はこれで終わったわけではなく、これから始まりますので、いろいろな形で御意見を賜りたいと思っ

ております。

市長

草津市のオンライン授業でございますが、これまでの積み重ねが生きてきたと思います。今回のコロナウイルス感染症の影響で、登校できない状況にしっかりと対応ができたということは、他の市町にも誇れるところではないかと思います。しかし、双方向の授業をしっかりと行う、子どもの感想の中でも少しわかりにくいなど課題が出ております。また、どのような内容がオンライン授業として相応しいか、その辺りも含めて今後とも進めていただいて、今後、全国のモデルになるようなオンライン授業を草津市から発信していきたいと市としても、市長としてもそのようにお願いをしていきたいと思っております。

教育部長

各委員さんも総じて評価はいただけたと思っております。ただ今、市長、教育長から話にありました課題で、先生方の負担や双方向の授業など、そういったことを含め、今後のICTを活かしたさらなる教育活動の充実に努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、第1部はここで締めさせていただきます、引き続き第2部に移らせていただきたいと思います。

2つ目の議題「地域社会の希望となる子どもの育成～第3期草津市教育振興基本計画の推進に向けて～」について、担当課である学校教育課より説明をさせていただきます。また、南笠東小学校、玉川中学校を御卒業で現在は関西大学4回生の水登喜丸さんに途中でお話をさせていただきますのでそれも併せて、全体での説明をよろしくお願ひします。

学校教育課長

早速ではございますが、本日のテーマである地域社会の希望となる子どもの育成について御説明いたします。

平成27年から令和元年までの第2期計画の取組について振り返りますと、本年度の全国学力学習状況調査の結果からも基本目標の概ねは達成できたと評価しております。しかしながら、目標5学校経営の充実向上のうち、特色ある教育活動の編成と実施、地域の活力を活かした学校経営の2点については改善を要すると判断し、検討を進めてきました。検討に際して、各種の計画や国の動きなどを整理いたしました。第6次草津市総合計画において、

学校教育の基本方針として、子どもの生きる力を育む教育、そして学校教育力の向上があり、それぞれ子どもたちが持続可能な社会を創造していく学び方を身につける必要があること、自己の専門性や指導の改善、そして地域や保護者との連携を図り、教育力の向上を図ることが課題とされています。さらに、令和2年度策定の第3期草津市教育振興基本計画では、新たにグローバル化の進展とSDGsの推進を掲げ、すべての分野において持続可能で誰一人取り残さないSDGsの視点を意識して取り組むことになっています。

また、国においては、新しい学習指導要領の前文と総則に、持続可能な社会のづくり手の育成と明記されており、「実際の社会や生活で生きて働く知識・技能を身に付けた子ども」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども」、「学んだことを人生や社会に活かそうとする学びに向かう人間性を身に付けた子ども」の3つの資質、能力の着実な育成が必要とされています。本市においては、さらに、自己肯定力ややり抜く力といった非認知力の育成を土台に、自らの意思に基づき思考判断、行動する主体性、問い学び続ける探究性、多様なものと関われる協働性、地域や社会のことを自分事にできる社会性を養い、地球規模で考え他と協働して、身近なことから行動する子どもの姿を目指しています。そして、この姿を実現させるための施策として、総合的な学習の時間を核としたESDに取り組むこととしております。ESDとは、現代社会における地球規模の課題を自分事と捉え、その解決に向けて、自ら行動を起こす力を身につけるための学習教育活動です。その本質は身近なところから取り組むシンク・グローバリー、アクト・ローカリーのことで、学びを実生活や社会の変容とつなげることにあり、SDGsの17目標の実現に貢献するものであります。

では、実際に中学生のときにESDで育った大学生の方のお話で、持続可能な開発を推進するための知識とスキルについて皆様にもイメージを持っていただければと思います。

それでは、水登さんよろしくお願いたします。

水登氏

紹介に預かりました水登喜丸と申します。私は玉川中学校でESD「つながり学習」を経験しました。その中で、中学時代に経験したESDの効果、また、先行きが不透明で、将来の予測が困

難な時代「VUCAの時代」でなぜESDの教育が必要なのか、自分自身の経験をもとにお話したいと思っております。皆さんよろしくお祈いします。

早速ですが、私はESDを通して3つの力が身についたと思っております。

1つ目が、仮説を立てて検証する力です。

当時、環境に対して中学生ならどのようにアプローチできるかを何度も仮説を立てて考えていました。例えば、エアコンを使わないようにするためにゴーヤカーテンを作ることにより日差しを防ぎ、実ったゴーヤを調理して美味しくいただく。レジ袋を使わないために、エコバッグを作りそれを実際に使ってもらうために、立命館大学に足を運んで配りに行く。つまり、何度も仮説を立てて、そしてそれを達成するために行動する、検証するといったことをしておりました。

2つ目が、人と信頼関係を築いていく力です。

ESDでは、本当に立命館大学の方やパナソニックさん、地域の方々など非常に多くの大人の方とお話しする機会がありました。その中で、直接現場に足を運んで皆さんと話をし、上手く関係を築けたからこそ、より良いアドバイスをいただくことができ、円滑にプロジェクトも進めることができました。この点からこの2つ目の人と信頼関係を築く力が養えたと思っております。

3つ目が、皆でプロジェクトを遂行していく力です。

これは、ESDでは最後に来賓の方々に向けて発表する機会があります。そこに向けて、仲間がそれぞれ取り組んだことを一旦持ち帰り、そこで議論、そして準備をします。その中で、最後までプロジェクトへ向けて皆で努力してやり抜くことができたからこそ、この3つ目の力が養えたと思っております。

この3つの力は、現在の私にも非常に活かされていると思っております。また、このESDを通じて、この力があれば何か世界を変えられるのではないかと、少し自分自身に自信を持てたことを覚えております。

次に、この3つの力が私の大学生活でどのように活かされたのか、2つのエピソードをもとに話していきたいと思っております。

1つ目に皆さんは、キックボードという乗り物は御存知でしょうか。この写真に写っている乗り物ですが、私は玉川中学校の友人3人と草津市から東京まで行きました。「とにかく誰よりも面白

く東京に行ってやろう」といった思いを持って行動しました。さらにその中で、知らない人と交流したいと考え、知らない人から毎日お風呂を借りるということ目標に取り組みました。東京まで470kmあります。東京まで耐え抜くキックボードをキックボードに詳しい方に聞きに行き、フランスのキックボードを取り寄せ、ひたすら練習しました。また、知らない人にお風呂を貸すということは、誰もが抵抗感があることだと思っております。抵抗感をなくすために夕方の5時までには交渉しに行き、何でもお手伝いをするという交換条件のもと、無事にお風呂入ることに成功しました。友人3人とも「とにかく面白くやり切ろう」をモットーにしていたので、途中でやめることなく無事1週間で東京に着くことができました。

続いて2つ目が旅人の世界大会です。皆さん、こちらのレッドブルというエナジードリンクは御存知でしょうか。

この大会ですが、3人1組のチームでわらしべ長者のように、レッドブル24本だけを持ち、食事や宿、移動手段と物々交換しながらヨーロッパを横断できるかという大会です。この大会に出場するためには、世界各国から1万5000チームがエントリーしており、その中から投票数によって200チームが選抜されます。その選抜されたチームしかヨーロッパに行くことができません。地元の友人3人とエントリーしましたが、投票数を稼ぐということに大変苦労しました。他のチームには、人気があるY o u T u b e rやモデルさんといった著名人の方も多く参加されていました。その人たちは、SNSを主に使って宣伝活動をされていました。その点私たち3人は全く有名ではありませんので、SNSでは敵わないということで、実際に自分たちで足を運び、人と話して信頼を勝ち取り、1人ずつ投票を集める方が確実ではないかと思い、1件1件草津市の居酒屋や美容院などにポスター持って声かけをしに行き、熱意を伝えて回りました。結果的に草津市の飲食店30件、美容院5件から協力いただきました。投票数は、1週間の投票期間で1万人から集めることができ、世界で2番目になることができました。この時点では、誰もが代表になれると思っていましたが、その後の英語面接で惜しくも落ちてしまいました。そういった苦い思いもありましたが、キックボードとレッドブルの2つの経験から、ESDで培った3つの力が非常に活かされたと思っております。

続いて、私の将来について少し聞いていただきたいと思います。

私は最近まで就職活動をしており、結果的にはグローバルにビジネスを展開する鉄鋼商社に入社することを決めました。これは、ESDのことが関連しており、商社というものは単なるメーカーとは違い、物を売って商売するのではなく、人と人との間に立ち、この人は何が欲しいのか、この人は何を売りたいのかというニーズを把握し、自分自身の人間力をもってビジネスを展開していくことが商社というビジネススタイルです。ESDで培った3つの力というものが自分自身の人間力だと思っております。それを活かして世界中でビジネスをしたい、英語面接で悔しい思いをしましたが、世界で戦いたいと思っております。また、誰もが使う鉄ですが、鉄を作る工程では、非常に多くの二酸化炭素を排出します。昨今カーボンニュートラルや脱炭素社会と言われており、時代に逆行している会社だと言えらると思っております。しかし、そこに自分自身のこれまで培ってきた人間力を活かし、鉄の新たな可能性を引き出し、世界をフィールドに持続可能な社会を実現したいといった思いがあります。

最後になりますが、私はこの草津市笠山に古くからの仲の良い友人が多くいます。私はグローバルにビジネスをした後、この草津に帰ってきて、この友人たちとそれぞれの強みを活かし、起業することが自分自身の夢であります。また、それが地元の友人との夢であります。冒頭に申しました「VUCAの時代」でどんな力が必要なのかと申しますと、やはりどんな困難な時代でも、何度も何度も考えていろいろな角度からチャレンジする行動する力、また、人と信頼関係を築いていく力、これが本当に必要であり、これが養えるのが、ESDの教育だと私は思っております。世界を変える人材はこの草津市から今すぐつくっていきなると思っており、後に帰ってきて草津の発展につながることは間違いないと思っております。現在なかなか先が見えないので、ESDをやったどのように変わるのかと思われる方がおられますが、それがきっと世界の環境、社会を変えるチャンスにつながると思っ是非ともESDを取り入れ、次世代の子どもたちに教育をしていただきたいと思いますといった思いがあります。

以上です。

学校教育課長

水登さんどうもありがとうございました。それでは、続けて説

明をさせていただきます。

総合的な学習の時間の現状がどうなっているかと言いますと、多くの学校では、これまでピンク色の部分の学習を行っていました。与えられたテーマに沿って情報を収集し、価値を見いだしたり、課題を発見しながら、より知りたいことを本やインターネットで調べたり、周囲の人にインタビューしたりして解決していく流れでした。社会に開かれた教育課程の実現には、先ほどの水登さんの話に多く出てきた、自らが人と関わって行動していくことが必要だと思います。緑の部分の学習活動を活性化させることが必要だと考えています。子どもたちの声で言うと、「このやり方やってみよう」、「つまずいたらやり方を調整しよう」、「復習して何が変わったのかに気付こう」にあたる部分にE S Dの本質があると考えています。

では、教育委員会が各学校の社会に開かれた教育課程を支えるにはどうすれば良いかについてですが、学校教育課、学校政策推進課、生涯学習課の3課で、「スクールE S Dくさつプロジェクト」を立ち上げ、それぞれの課題を共有しました。学校においては、子ども主体の特色ある教育課程の編成が十分ではなく、カリキュラム・マネジメントの実現が求められています。コミュニティ・スクールにおいては、設置当初からの学校運営協議会の内容の拡充が必要です。地域協働合校推進事業については、平成10年に立ち上げられた取組に準じたものであり、抜本的な見直しが必要です。これらの課題をどのように解決していくか議論をして出した答えがこれです。このプロジェクトは、2030年に1人も取り残さない教育の実現を到達目標としています。関係課がそれぞれの課題に向き合い、対応することと同じく、3課の連携を強化することは重要になってきます。そこで、教育委員会ではE S D担当の設置を学校ではカリキュラム・マネジメントの実践と地域の学習資源の活用を推進していく計画です。

それぞれについての詳細を紹介しますと、1点目は、学校教育課に指導主事1名、教員OB1名の計2名をE S D担当として配置し、E S Dカレンダーの作成支援、検証と課題に向けた支援、実践と学力向上との相関把握、学校運営協議会での地域連携支援などを行って参ります。

2点目は、モデル校3校による2年間継続をしたE S Dの実践と検証です。各校のテーマに基づくE S Dカレンダーに則したカ

リキュラムの実践とホームページ発信が学校運営の活性化と学校文化の創出につながることを想定しています。地域課題解決型の地域協働合校活用により、グローバルな地域活動の充実につながることを期待しています。市教委主催の報告、研修会の開催による教育的効果の実証でゆくゆくは子ども同士の活動の交流の場としていきたいという思いを持っております。

3点目は、令和6年度にはすべての小中学校でE S Dを推進するに当たり、令和4年4月「スクールE S Dくさつ宣言」を行い、子どもたちはもちろんのこと、市民への啓発を行い、草津の子どもたちが将来、社会や地域を担い、主体的に社会参加できることを目指しています。

こうした「スクールE S Dくさつ宣言」に向けて、この総合教育会議の協議の後、令和4年度予算への反映、当初予算概要の記者発表、来年4月にはモデル校3校での取組をスタートしたいと考えております。事業を推進するに当たっては、常にP D C Aサイクルを回しながら、事業の質や効果を高めていきたいと考えています。令和8年度末を中間評価時期とし、この3点について、すべての学校で評価をし、課題についてはE S D担当が指導、助言をしながら最終ゴールを目指していきます。「スクールE S Dくさつプロジェクト」の計画をまとめると、このようになります。第3期教育振興基本計画を実現させる手段の1つとして、このプロジェクトを遂行することで、子どもたちが伸び伸びと自分らしく成長し、その力を人のため社会のために思う存分発揮し、地域社会の希望となることに大きな期待をしています。

説明を聞いていただきありがとうございました。委員の皆様には、方向性の是非やより高い効果を期待できる方法等について御意見いただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

教育部長

それではただいまの内容につきまして、意見交換の時間を20分とらせていただきたいと思います。また、水登さんに対する質問でも結構です。どうぞよろしく願いします。

市長

水登さん素晴らしい発表ありがとうございました。

「つながり学習」で3つの力が身についたとおっしゃっておりましたが、その3つの力以外で他の力が磨かれたものはありますか。また、キックボードで東京に行ったときやレッドブルの大



会のときのメンバーは、どのようにして選ばれましたか。

水登氏

はじめにメンバーですが、キックボードのメンバーは幼稚園から中学校まで一緒に通っていた幼馴染です。また中学校では、生徒会のメンバーでもあり仲の良い友人です。そして、レッドブルの方ですが、これに関しては幼馴染のうちの1人と私ともう1人は、高校に通っていたときの友人1人を選んで3人で取り組みました。

1つ目の質問ですが、私は本当に勉強が苦手でしたが、国語のディベートの時間で自分自身が話したことに対して、相手がどのようなことを答えてくるのかを常に考えて話します。こういったところは仮説を立てて検証して発言していく、行動するといったところにも通ずるものがあったと思っています。

以上です。

市長

ありがとうございます。

稲垣委員

水登さんに聞きたいことがあります。中学校で開花されたとおっしゃいましたが、小学校で力をつけたものがあれば教えてください。

水登氏

小学校のときの記憶が曖昧で申し訳ございませんが、ESD自体がわかっていなかったと思います。環境問題に対して小学生で何ができるかは相当難しいところがあると思いますが、1つ覚えていることがパナソニックさんに足を運び、環境問題に対して取り組んでいるというお話を聞いて、私たちの身近なところからできることがあると教えていただいたことが記憶に残っています。それがあったからこそ、中学校で環境問題に対して、取り組むことができたと思っています。

松嶋委員

はじめに1点、水登さんにお伺いしたいことがあります。キックボードで行く東京の旅も事前にいろいろ予測を立てて、いろいろな対策を練って行かれたと思いますが、そういった対策を考えた上で、予想外の問題などもあったと思います。総括として新たに学べた視点など何かそういったことがあれば教えていただけますか。

水登氏

「田舎に泊まろう」という番組で思いのほか簡単に泊まっていたので、出発する前はお風呂くらいなら貸してくれるだろうと思っていました。実際に行ってみると、やはり厳しく、断られることも何度もありました。そして、何が悪かったのか考えたときに、夜遅くに声かけに行っていたことや全く需要と供給が満たされていない状況で交渉していたことがあり、相手のことをもう少し考えておけば良かったです。その後、先ほど紹介したようなお風呂を貸してもらうために何でも手伝ったり、夕方の5時まで交渉したりしました。

松嶋委員

ありがとうございます。

もう1点ですが、水登さんがもし何かお答えできることがあればお聞きしたいです。この資料の大きい項目の9番で最初の情報収集が特に地球規模の問題になってくると、いわゆるフェイクニュースや情報の中から都合のいいところだけを切り取ってミームになっているような情報が錯乱しているような状況で、何が正しい情報か見極めることは大人でも難しいところなのかと思います。そんな中で、情報を見極めていく能力をどのように教育していくか少し気になりました。また、この情報収集が間違っていれば明らかに違う方向に向かっていきますので、非常に重要な点だと思います。何かお考えがあれば聞かせていただきたいです。

水登氏

中学校時代のESDに取り組んでいたときに関しましては、インターネットで調べることもありましたが、やはりESDの良さは、実際に立命館大学に足を運んで実験を見させていただいたり、パナソニックさんの話を聞きに行ったり、地域の方々のお話を聞いたからこそ、より良い生の情報を得られたと思っております。また、情報はこれから自分自身が商社マンとして重要なことだと思っております。ネットだけで調べるだけではなく、商社マンというものはESDに通ずるものがあり、実際に海外の鉄を作っているところに足を運び、工場の現場がどのような作業をしているのか、どこの鉱山から鉄が持ってこられ、鉄を加工しているのかを見て、それをお客様に伝えて商売をしていくと私は考えております。そのため、自分自身の足を使って泥臭く情報を取りに行きたいと思っております。

学校教育課長

学校現場におきましては、情報の根源として地域に目を向けるということ子どもにさせたいと思っています。その中で、地域における情報などを教師とともに一緒に見つけながら、整理していくところが学習のスタートだと考えております。その収集した情報を活かしながら、様々な課題を解決していく流れが総合的な学習であるとは思いますが、より広いところに目を向けたときに、いろいろな情報が入ってくる中で、それを取捨選択していける力、そして情報モラル教育も必要になってくるかと思っています。最初は地域にしっかりと目を向けて、その中から地域の課題を見つけ、解決していく学習を展開していきたいと思っています。

松嶋委員

ありがとうございます。

稲垣委員

先ほど小学校の時は分かっていなかったという水登さんの言葉は非常に大事なキーワードだと思います。今の小学校のカリキュラムには総合的な学習の時間が中学年で70時間、高学年で105時間ありました。その中で、先ほどの9番の学習の仕組みはありました。ところが、有効に働いていませんでした。自ら課題を発見するところから発表もしていたと思いますが、それを十分に指導できる教師が少なく、引っ張っていく教師自体の力量が問われていると感じます。総合的な学習という新しい教科ができたときに乗り切れた先生と、どのようにやっていくか模索していた先生がおられると思います。そうしている間にそれがカリキュラムになってしまい、流れのままでやってしまったため、深められなかったのではないかと思います。しかし、水登さんはパナソニックがきっかけで聞きに行くことを知ったとおっしゃいました。パナソニックや地元の工場見学など、先生が働きかけているはずですが、先生の介在なしに立命館大学に行っておられないと思います。これからは、指導主事1名、教員OB1名を置くことは大きな窓口かと思っています。また、ここに渋川小学校のカリキュラム・マネジメントがあるように、このような形で捉われるのではなく、地域と学校の接点は今もあると思います。それをどう活かすか、学校の特色をどう出すかというところをしっかりと基礎を組んで取り組まないと、やれる学校だけがやるということになってしまうと思います。例えば、玉川小学校や南笠東小学校、玉川中学校は

立命館大学やパナソニック、常盤小学校であれば、水生植物公園みずの森や琵琶湖博物館といった協力してもらえるところが近くにあります。本来は教師が連絡を取らないといけません、そういったところと連携をしっかりと図れるようにすることが指導主事やOBの先生のアドバイスであると思います。

また、総合的な学習の時間は週に1時間もしくは2時間しかありません。それまでの間の時間でどのようにつないでいくかということも大事です。子どもたちが休日に親御さんとどこかに行ってきたということが次の学習になりますので、長期休暇を利用していかないと上手くつながりません。今の水登さんのような発想力や協調性など身につくと思いますが、そのための基礎がしっかりできていないと空回りしてしまうことがあります。

また、ESDで身についた力がディベートで活かすとおっしゃったことが教科との関連をしっかりと明記されているように他の教科に生きる力を培うために、外国人と話すことで、英語活動を活性化させるなど、隙間の時間をこれから整理されていくと思いますが、今まで点でやってきたことが、線になり、面になるようなイメージで令和8年度の間目標の発表に向けて仕組みを作っていかれるだろうと思います。小学校はベースを築いて中学校で開花されたようにしっかりとつながってほしいと思います。

教育部長

「スクールESDくさつプロジェクト」の内容について少し御議論を深めていただければと思います。

小辻委員

今の水登さんのお話をお聞きして、非常に楽しくワクワクしながら良い発表だと思い聞いておりました。

モデル校による実践と検証で良いことをやっていますが水登さんとやっていることに違いがあります。それは、発信力です。同じことをやってもテレビ取材されるのとされないのでは大きく違います。おそらく周りの方に伝わってないことが多いです。これは大学を見ても同じで、例えば、京都大学は地域連携のことがよく出てきますが、小規模、中規模の大学だとなかなか出てきません。他の大学も地域連携をやってはいますが、結局は売り込めてない、ネームバリューなどに惹かれてしまっています。今回のスライドを見てもモデル校によるカリキュラムの実践とホームページによる発信と書いていましたが、ホームページに

よる発信だけではやはり足りないのではないかと思います。子どもたちは良い学びをして、おそらくそこでは非常に良いものが生まれているはずで、ここで新聞やテレビ局などに担当の方がしっかり売り込んで、活かさないと結局やっただけになり忘れてしまいます。新聞や広報に載ることで子どもたち1人1人に達成感と自分が認められたという肯定感をしっかり身につけていただくということがこの教育の中で1番重要なことかなと思って拝見していました。私も自分の仕事も含めて売り込んでいけなかったと思うことが多々ありました。話を聞いていて売り込む力、発信する力の大切さを非常に感じました。水登さんがレッドブルの大会で投票数が2位になれた理由はそこにあると思います。このようなことにつながる事業をされているので、文章では簡素にまとめられていたとしても先生方にはホームページによる発信だけではなく、さらに売り込み、子たちがやってきたことを発信していただきたいと思います。そうすることで、全体的に草津市が良く見えてくるのではないかと思います。また、子どもたちも草津の小学校、中学校に通うことに意味を持てると思って聞いておりました。

以上です。

我孫子委員

SDGsについては知っていましたが、恥ずかしながらESDという言葉はここで初めて知りました。子どもたちにとって大事なことです。このプロジェクトをこれから草津市で進めてもらいたいという思いはありますが、一般の方や地域の方々には知られていないのか、わかっていない方が多くいらっしゃると思います。それがどれくらい素晴らしいことであるかを広め、地域にとって良いことであるということを知っていただきたいです。今後は、何か広めていけるような機会をつくってほしいと思いました。

市長

今後、展開していく上で大事になることは、ESDカレンダーをどのように作り込んで、そして、具体的な展開をした中で発信をし、また、サイクルを回して改善していくということが大事になるかと思います。

質問ですが、このESDカレンダーは各学校別、学年別で全員が作るというやり方ですか。

学校教育課長

E S Dは、各学校、学年ごとに学習時間にテーマがあります。そこには、他教科との関連も必要になってきますので、それに沿った流れで作っていくことを想定しております。

市長

学校としての大きなテーマがあり、それに対しての各学年別の作り込みをしていくのか、各学年がそれぞれのテーマで作っていくのか、学校と学年との関係はどのような見解を考えておられますか。

学校教育課長

現状を見てみますと、学校によっては各学年がそれぞれのテーマで総合的な学習を進めている学校があるのも実情だと思います。しかし、それでは統一することが難しくなってくるので、こちらとしては、担当の窓口を中心に学校としての大きなテーマに沿って、各学年がどのように総合的な学習の時間を進めていくのか、それに基づいたE S Dカレンダーの作成を進めていきたいと考えております。

市長

基本的にはそうであっても、幅を広げた展開の方がより個々の先生の思いや能力を活かすことにつながっていくように思いますので、学校のテーマを限定的にするのではなく、環境全体や社会問題など、地域の課題を地球規模の課題と結びつけて取組を行うことで、先生の個々の特性や能力を十分に発揮していただきたい。学校の中で論議は、先生間で十分にさせていただいて、組織立って動いていただくということをお願いします。

学校教育課長

どういった子どもにしたいかを一番に考えながら、今、教えていただいたことをこれから活かしていきたいと思います。

教育長

E S Dの考え方は、環境やエネルギーだけではなく、非常に幅広い文化や平和、人権、健康、福祉などがあります。学校目標はそれぞれございますが、テーマを1つに絞るのではなく、地域の現状と重ね合わせていただいて、その学校の教育目標につながるようなテーマで取り組んでいただきたいと思います。また、今までやってきたテーマとは全く違うテーマを持つてくるのではな

く、既に取り組んでいただいている地域との連携もありますので、そこはしっかり大事にさせていただいて、最初のテーマづけをしっかりと丁寧に決めていく必要があると思っております。

稲垣委員

社会に開かれた教育課程を支える体制ということで、学校教育課、学校政策推進課、生涯学習課が三位一体となり支えていく構図になっていると思います。スライドの学校政策推進課のところに「学校を知ってもらう」から「ともに経営していく」への移行は、非常に難しいことだと思います。文科省もそういったことを推奨していますが、学校協議会のメンバーの人が経営に携わっている学校は市内にありますか。学校評価の結果は聞きますが、学校代表の説明になってしまい、地域の人が経営に参加することが難しかったと自分は感じています。

また、子どもたちが「社会をよりよく変えていける」と実感できる活動は非常に良いことだと思います。私が住んでいるところは農村地帯です。個人で農業をやっている人がほとんどおらず、委託に代わっています。ある農業大学に通っている子は農業が好きでやりたいと思っており、そういった子が地域に残って農業を続けてくれることを私は期待しています。この「社会をよりよく変えていける」と実感できるというところまで、地域協働合校、生涯学習課がバックアップをやっていただくことで三位一体となることが、総合的な学習を支える大事なポイントではないかと思いました。

教育長

学校現場だけに任せてしまうと、全く動かない分野でございますので、市役所の中の体制はこういった考えではありますが、どのように地域と関わっていくのか、どのように地域の支援を行っていくのかということが非常に重要であります。また、地域住民の方や教育機関、いろいろな施設もございますので、そういったところにどのように連携していけるのかも非常に重要な部分であります。教育委員会ではこの3課が連携しておりますが、市役所の中には他部局もございますので、そういったところもしっかりと連携を深めさせていただき、決して学校現場だけに任せることのないように教育委員会事務局として、また、市役所全体としてそういった学校体制をもっていきたいと思っております。また、市長さんの絶大なる御協力をお願いしたいと思っております。

時間がないところ申し訳ないですが、水登さんに1つだけ質問があります。

草津に帰って皆で起業したいという気持ちはどこから生まれてきましたか。

水登氏

私は、南笠東小学校の出身ですが、そこで育ったからこそ出会えた友人もいます。友人の中には、将来、銀行員になる者、学校の先生、ギター職人をやっている者、既に映像系の起業をしている者など、多くの友人がいます。その友人たちに出会えたから、草津に帰ってきて、自分の会社を大きくして、自分たちのまちをより大きくしていきたいという思いがあります。

教育長

草津の地域が原点であり、そこで培われた郷土愛が確かに感じられます。そういったことは非常に大事だと思います。今の時代、副業などの方法もありますので地域に貢献していただきたいと思っています。

教育部長

誠に恐れ入りますが、時間の関係でまとめを教育長、市長からいただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

教育長

非常に難しい議題をいただきましたが、各委員さんからいろいろと御発言いただいたことで非常に大事なことがあったかと思えます。すべてに触れていく時間もございませんが、私は特に小辻委員のお話にもあった、しっかりと伝わっていないということが印象に残っています。我孫子委員からも広めるということで意見をいただきました。今の学校現場においても、いろいろ創意工夫していただき、先生方にいろいろな活動をしていただいています。地域には伝わっておらず、また、保護者にも伝わりにくい点、参観日ができないなど、そういった課題もありますので、やはりしっかりと伝えていくということが、教育における市民や保護者の皆さんの信頼度を高めていくこととなります。地域にも協力していただくことにより、E S Dがますます広がっていく基盤になるのではないかと思います。学校だけでなく、地域と一緒にやらせていただくことで広める、伝えるということが非常に有効に働いていくのかと思っております。今までも地域とつながった学習をしていただいていたと思いますが、これからはもう少し意識をしてい



いただき、しっかりと伝えることで信頼感が高まり相乗効果が上がっていくことを現場の先生方にもしっかりとお伝えし、議論をして地域の方の御協力もいただきながら進めて参りたいと考えております。また、委員の皆さんにおかれましても、それぞれのお立場で御協力いただければと思っております。

以上でございます。

市長

水登さんからの発表も踏まえての発言となりますが、確かにVUCAの時代と言われ、先行き不透明な今、いろいろな形で日本を含め、世界で行き詰まりが出ている。その中で、環境社会を変えていく行動力が必要です。教育の中で、子どもたちに未来を担ってもらおうということをこのESD教育を通じて、問題意識を持ち、それを自らが行動する子どもが育つような教育をしていきたいと思っております。そのためには、先生方にもそういった意識や授業のやり方など、より磨きをかけて、子どもたちの能力を引き出すような展開をしてほしい。先ほど教育長からもありましたが、もう1つは、それをいかに発信して、保護者や地域社会の大人たちに伝えていくのか。また、子どもたちの学習の成果の励みにもなるものでありますので、以前からパブリシティ戦略をしっかりとやるように職員、学校全体にも言っていますが、さらに工夫をして、新聞やテレビで取り上げられるような、教育の中身を作り上げていただきたいと思っております。このESD教育は教育ですので、時間はかかったとしても草津が変わり、日本も変わり、世界も変わるというところで結びつけていきたいので、私としても市を挙げて、教育委員会共々頑張りたいと思っております。水登さんにはいろいろと御提言をいただきたいと思っております。

教育部長

水登さんのお話を聞かせいただきましたが、ESD「持続可能な社会のづくり手の育成」というのは簡単なものではなく、それがすべての人、子どもにということは難しい面もあるかと思っております。そのため、市長、教育長からの発信力、行動力というお言葉や委員からの御意見を踏まえて、1歩目を進めていかなければならないと思っております。今後の地域社会の希望となる子どもの育成について、皆様の方からも御意見いただき、一定の進めていく方向の共通認識を持つことができたのではないかと考えております。御意見、御提案いただきました内容につきましては、実

現に向けて事務局でもしっかりと検討して参りたいと思います。

また、水登さんにおかれましては、自らが玉川中学校時代に経験したことを通じて、E S D教育の必要性をお話いただきありがとうございました。今一度、水登さんに拍手をお願いします。

それでは最後に、市長より閉会のお言葉をいただきたいと思えます。

市長

教育委員の皆様、水登さんの貴重な御意見、御提案を踏まえまして、しっかりとしたE S D教育を草津から発信していきたいと思えます。これでE S D教育は終わりではなく課題をどうしていくかなど、改善していきますので、そのときには御意見を賜りたいと思えます。よろしくをお願いします。

本日はありがとうございました。

閉会 午前11時30分